



名古屋市内の植物の多様性



名古屋市内には、いったいどのような植物が、どこに、どのくらいの量で見られるのでしょうか？詳しい情報はまだまとまっていません。名古屋市では、2015年にレッドデータブック(RDB)を作成しました。2020年のレッドリスト改訂に向けて、名古屋市内の植物種の分布調査が進められています。名古屋市内には、数が減少して絶滅が心配されるもの、外国から侵入して名古屋に帰化したものなどいろいろな植物種が見られます。今回は、それらのうちのいくつかを紹介します。

1. キンラン

名古屋RDB (2015) — CR (絶滅危惧Ⅰ類)



名古屋市内西部にわずかに知られていましたが、2018年にさらに北部で新たに7株を確認できました。名古屋市内では極めて希少なもので、絶滅が大変心配です。本種を見つけたときは、自然のままで観察し、絶対に触れないで下さい。

5. キツリフネ

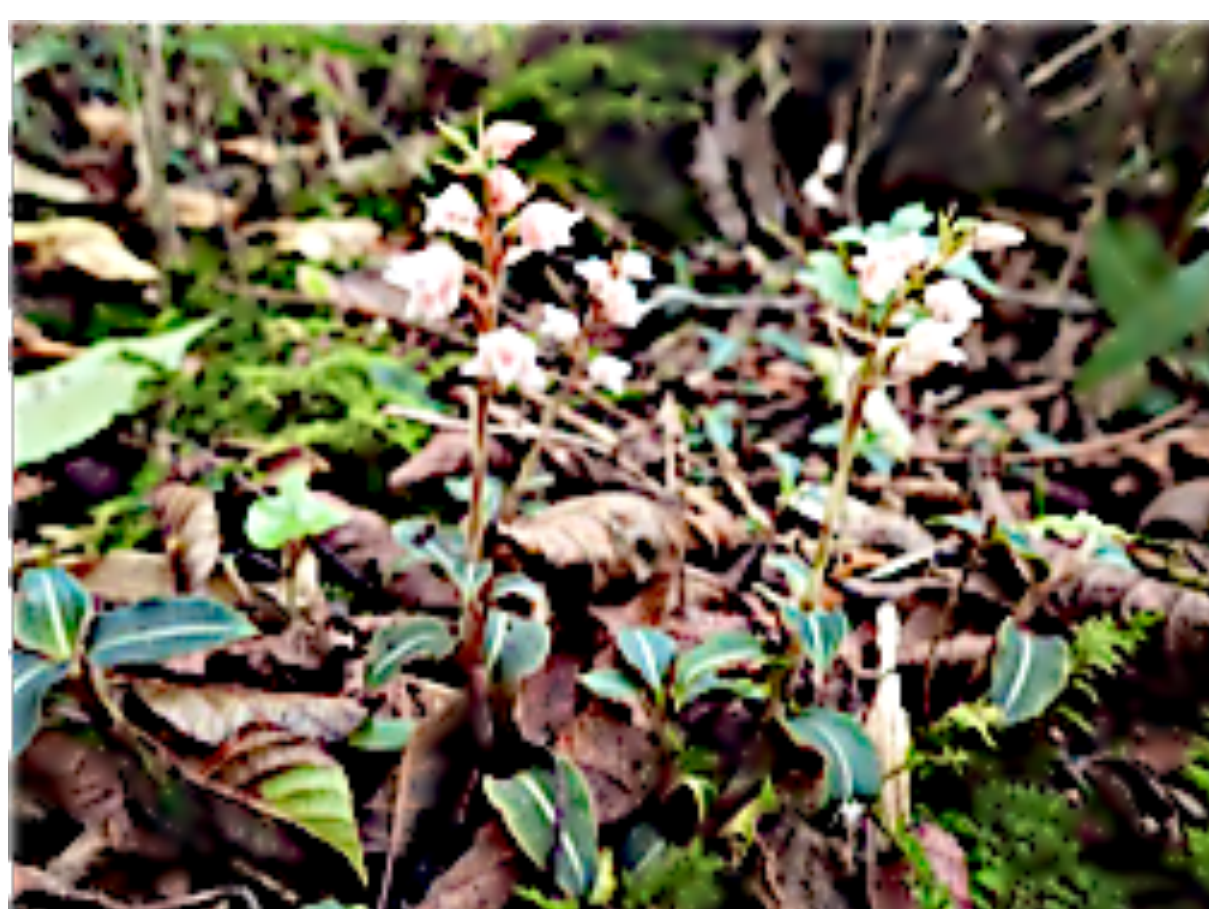
名古屋RDB (2015) — 未登録種



2018年に名古屋市内東部で小群落を確認できました。三河山間部の谷川では群生するのが見られます。次回の名古屋RDBにはCRで載っても不思議ではないくらい貴重な植物です。

2. シュスラン

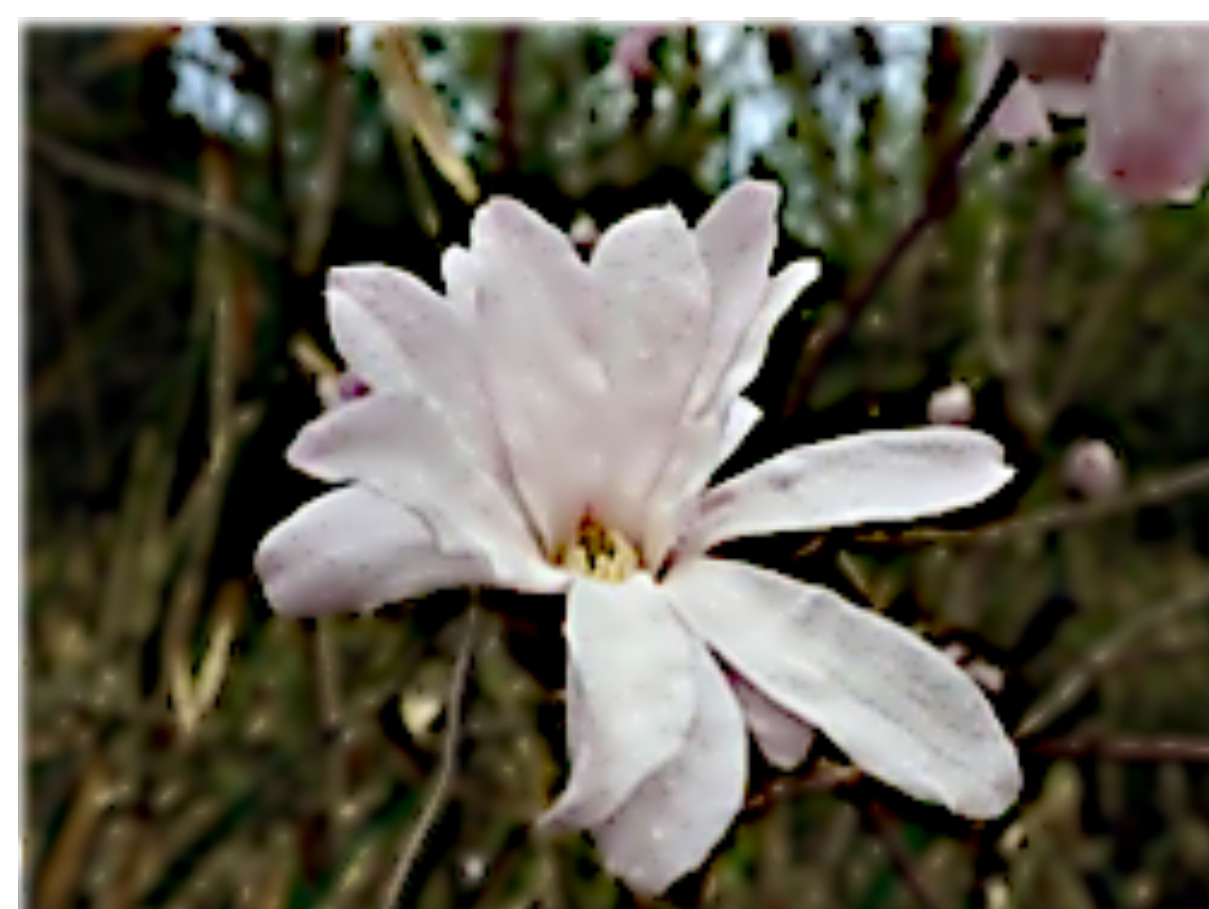
名古屋RDB (2015) — CR (絶滅危惧Ⅰ類)



名古屋市内北部で小群落を確認しています。これも極めて希少なもので、絶滅が心配です。やはり、自然のものは自然の中で観察し、静かに残しておきたいものです。

6. シデコブシ

名古屋RDB (2015) — CR (絶滅危惧Ⅰ類)



低山地の谷川の湿地に生育。東海丘陵要素の植物。名古屋市の絶滅危惧CRに指定されています。しかし、コブシなどとの雑種が守山区では沢山見つかっており、純粋なシデコブシがなくなりつつあるのが現状です。

3. オニヒカゲワラビ

名古屋RDB (2015) — 未登録種



暖地性のシダ植物で、三重県南部では多く見られますが、愛知県では限られています。それが、愛知県の最北部名古屋の東谷山で11株も見つかりました。絶滅危惧CRに相当するほど貴重なものです。

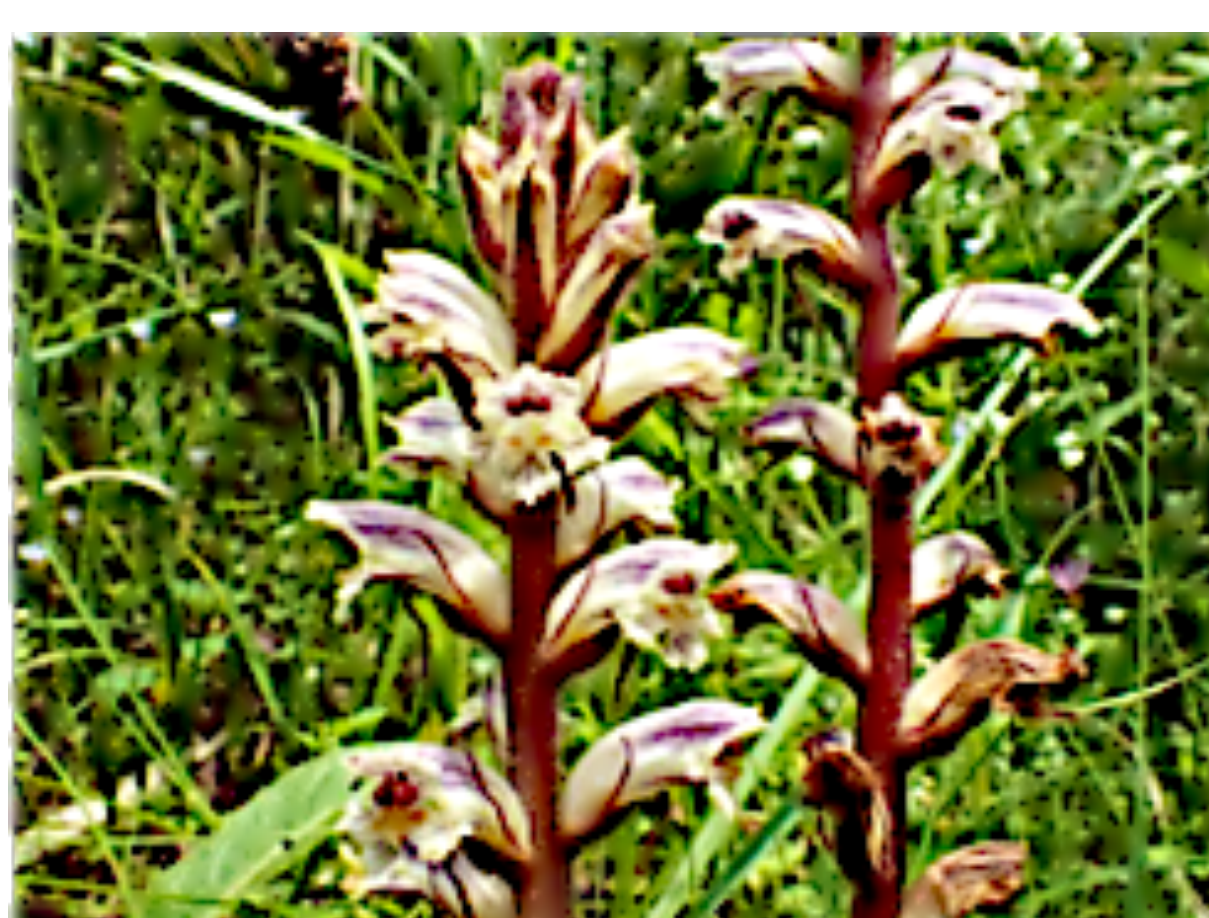
7. アリドオシ

名古屋RDB (2015) — CR (絶滅危惧Ⅰ類)



1mほどの高さの常緑の低木。葉のもとにとげが十字状に出ます。白い花を5月の初めに咲かせます。名古屋市内北部で数株だけ見つけました。次回の名古屋RDBでは絶滅危惧CRになっても不思議ではないほどの希少種です。

4. ヤセウツボ



ヨーロッパ原産の帰化植物です。マメ科、セリ科、キク科などの根に寄生する寄生植物で、庄内川の堤防の草地などによく見られます。

8. セイヨウヒキヨモギ



ヨーロッパ西部原産で、半寄生の一年生の帰化植物です。6月ごろ黄色の花を咲かせます。ヤセウツボと同じように、庄内川の堤防の草地などによく見られます。